

2020 年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 17 日

1. 職名・氏名 教授 寺島 喜代子

2. 学位 学位 博士、専門分野 医学、授与機関 福井大学大学院医学系研究科、授与年 2011 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
1. 老年看護学概論（2 単位 30 h）	配当年次 2 年次生
① 内容・ねらい	
2 年前期の開講科目であり、学生が看護の対象を理解する力や高齢者の具体的イメージが乏しいことを踏まえ、生命力アセスメントモデルを使って高齢者を理解するとともに高齢者の“もてる力”の気づける講義としている。加齢に伴う高齢者の運動機能を解剖学的に理解し、高齢者の食や排泄、活動・休息に及ぼす影響を理解し必要な看護の視点を学ぶ。 生命力アセスメントモデルの『支える力』は最新の新聞記事で取り上げられている高齢者の話題をとおして、高齢者の社会保障制度や社会実態を理解できる。	
② 講義運営の工夫	
現在 85 歳の高齢者の生きてきた時代を理解するため、終戦直後や「All Ways 三丁目の夕日」の集団就職生を中心に上げ、映像をとおして理解するようにしている。COVID19 のため遠隔授業のため高齢者疑似体験が不可能であったため、姿勢の変化が生活動作をするうえで生じる不便さや危険を理解する代替として、過去の学生の体験内容を活用し、学生が想像しやすいように工夫した。 高齢者を取り巻く社会福祉制度や社会的問題に関心を高めるために、100 件の新聞記事を提供し、グループで選択したテーマに則してグループ発表を行い、自グループのテーマと比較して高齢者が置かれている社会の実態を理解できるようにした。	
2. 老年看護学（2 単位 30 h）	配当年次 2 年次
① 内容・ねらい	
高齢者を理解するために生命力アセスメントモデルの『生活する力』である「食と排泄」「運動と休息」と『人と関わる力』の特徴を理解する。 「食と排泄」では高齢者の栄養の実態と摂食嚥下機能、非経口的栄養補給の理解と排尿機能と排便機能、皮膚障害について理解する。「運動と休息」では運動機能障害の特徴を理解したうえで、高齢者の転倒、廃用症候群、睡眠パターンの変化とサーカディアンリズムを整える援助の実際、運動機能評価の実際を学ぶ。『人と関わる力』の特徴では、老年期うつ、せん妄の理解と高齢者のせん妄の促進因子、認知症の理解、倫理的課題を学ぶ。	
②講義・演習の工夫	
復習を兼ねて前回授業内容の小テストを実施しながら知識の整理をしながら講義をすすめている。認知症高齢者に対して学生が抱えている理解（＝誤解）を壊したうえで授業に参加できるように、冒頭の授業で DVD「ばあば大丈夫」の認知症高齢者が抱える困難感を示している部分を紹介し、認知症高齢者との関わり方について理解できるようにしている。さらに、実際のせん妄や認知症高齢者との関わりについては、学生が事例を想像しやすいように先輩学生や教員の関わりの実際場面を意図的に数多く活用し、高齢者の反応が理解しやすいようにしている。	
3. 老年看護学演習（1 単位 30 h）	配当年次 3 年次生
①内容・ねらい	
老年看護学実習での実践力強化を意識した学習内容とし、技術面と看護過程展開力を演習で理解する内容としている。 看護過程展開演習は、心不全急性増悪と脳梗塞発症後の事例を基に、老年看護学実習で使用する実習記録を使って、情報分析、関連図作成、生命力アセスメント、看護の方向性を導くまでとしている。	
② 講義・演習の工夫	
COVID19 のため遠隔授業となり技術演習が不可能になり授業内容を大幅に変更した。 認知症高齢者とのコミュニケーションについては、DVD「ペコロスの母」の必要箇所を取り	

出し視聴しながら、認知症高齢者の“持てる力”の見出し方、関わり方の違いで変化する認知症高齢者の反応から認知症におけるコミュニケーション技術を学ぶとした。

高齢者の皮膚の特徴を学び、弾性ストッキングの着脱やMDRPUの早期発見を行うための観察 Point を遠隔ながらもストッキングの着脱や装着体験ができるようにした。

看護過程展開の事例展開演習では、解剖生理学や病態生理学の既習の知識を活かし、生活をととのえる看護の視点が身につくように、学生が提出した記録を ZOOM 画面で共有し、コメントをしながら情報の判断に必要な専門知識の整理や、看護の方向性につながる視点を学生の提出記録を基に指導した。

4. 老年看護学発展セミナー（1 単位 15 h） 配当年次 4 年次生

①内容・ねらい

＜目標＞さまざまな健康問題を抱えて在宅で生活をしている高齢者やその家族を支援している、地域包括支援センターや居宅介護事業所で行われている支援の実際と多職種連携や協働の実際を学ぶ。

② 講義・演習上の工夫

COVID19 の影響で、地域包括支援センターや居宅介護事業所でのフィールド学習が困難となった。そこで、慢性疾患をもちながら生活している家族支援が乏しい独居高齢者や地域での生活が困難な模擬事例を作成し、学生がより具体的なイメージをもって対象の生活をととのえることができるように工夫した。住まいがなく社会保障の支援を受け難い事例や、家族がいても高齢者の健康維持に協力が得られない事例などに、看護者が具体的にどのような支援を行えるのか、看護者が多職種とどのような連携をもっていくのか、多職種専門職連携をとるうえで看護の専門性とは何であるのかを学生間の Discussion を重ねて学びを深められるようにした。

5. 看護教育学（1 単位 15 h） 配当年次 4 年次生

①内容・ねらい

看護生涯教育としての看護教育を理解し、専門職の特質を理解したうえで日本の看護の課題と、“社会人基礎力”を養ううえでの看護学実習目標を理解する。生涯教育として看護を学ぶうえで知るべき看護学生の同一性地位プロフェッションフッドを知る。専門職として学び方を学ぶ実践から学ぶ技：リフレクションをとおして、キャリアマネジメントについて理解する。

②講義・演習上の工夫

4 年次の卒業前の段階で進路も決定している学生が対象であるため、学生各々が目指す専門職の場で成長発達していけるための、自己教育力を高めるための方策を学ぶ機会となるようにした。看護学生として 4 年間の自己の変化に気づけるように、実習での気がかりとなっている場面を振り返ることで、リフレクションの重要性和、“気がかり”として心に残っている経験に自身の価値観の礎があることに気づくことで、今後そうした“気がかり”の場面を共有する人と体験を語り合うことが、専門職としての成長につながることを理解できるようにした。

6. 老年看護学実習（4 単位 180 h） 配当年次 3 年次生

①内容・ねらい

目的；(1) 多様な価値観をもち、健康問題を抱えている高齢者の日常生活の自立を拡げる援助をとおして、高齢者の“もてる力”を引き出す看護を実践する。(2) 生活機能に何らかの障害を持つ高齢者が健康な生活を維持していくための「支える力」の援助の在り方を理解する。

②実習運営上の工夫

実習展開方法は《高度急性期病院実習》、《介護老人保健施設実習》、《デイケア実習》であるが、COVID19 の影響で施設での実習が困難となり、《高度急性期病院実習》の実習施設を K 病院から S 病院に変更し、病床数の減少によって被る学生の実習環境の弊害を解消した。

《高度急性期病院》は 2 単位とし、施設実習とデイケア実習の代替として学内演習に切り替え、演習目的を「1. 地域包括ケアシステムにおける高齢者の生活をととのえる；看護者がもつ視点」と「2. 認知症高齢者との関わりを理解する」としグループ学習とした。「1」については病院実習で担当した患者の退院調整の実際を振り返り、病床機能報告制度の意味や、S 病院転院後、地域で生活が可能になるためにどのような社会資源や専門職連携が必要であるのか、介護保険サービスの利用料金や家族構成など実際の担当事例を基に地域包括ケアシステムの構築に向けた課題や看護者の役割を理解するようにした。「2」については、学生を 3 グループに分け認知症高齢者が主人公となっている DVD を学生が選択し、認知症の重症度評価や認知症の

進行の実際や家族の関わりの実際の場面を取り出し、認知症高齢者との関わりを学ぶと共に、地域のなかで認知症高齢者が生活するためにどのような課題があるのかを理解し、看護者の役割と「1」での学習をさらに深めるという展開をしている。そして最後に学生にレポートを課し、学内演習のグループ課題での学びを整理するようにしている。
7. 看護マネジメント実習（2単位 90h） 配当年次 4 年次生
①内容・ねらい 実習目標：(1) 看護サービスマネジメントの全体像を把握する (2) 実践を通して看護サービスマネジメントについて考える
②実習運営上の工夫 専門領域の実習をフィールドではない福井大学での実習であり、本学の学生の特徴や、実習目標や実習運営方法の理解を得るために、5 月より看護部長、教育担当部長、実習病棟看護師長（7 部署）と連絡を密にとりながら理解を得るように準備している。 実習中は、学生が臨床現場でどのような体験をしているのか教員自身が理解するために、実習病棟の朝の申し送りや病棟カンファレンスに参加し、学生と体験の共有化を図ったうえで、毎日実施するカンファレンスに活かしている。学生の実習終了後の学生個々の学びのレポートは、実習病院の各病棟と看護部に配布し学習成果の報告としている。
8. 卒業研究（3 単位 90h） 配当年次 4 年次生
① 内容・ねらい 看護学実習での実践経験をととして生じた学生の研究疑問を研究テーマとしている。本年度は遠隔指導の時期も長く、研究計画書作成までが授業目的であった。
② 演習運営上の工夫 学生の問題意識から文献検討の時間を多くとり、文献検討の重要性と文献検討を重ねることによって研究疑問の焦点化が得られることを体験できるように工夫した。さらに倫理的配慮についても指導を重ね倫理審査申請書まで作成した。そして老年看護学の卒研メンバー4 名で研究計画書の発表会を行い、発表方法やスライド作成の指導を行った。こうした一連の過程を経験し、本来の研究の進め方や発表方法についても学習する機会とした。
(2) その他の教育活動
・ 福井県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師、 担当講義：「実習指導の方法」「実習評価の意義・方法」「実習指導案作成オリエンテーション」「実習指導案作成総括」、 ・ 福井県看護協会「令和年度看護研究グループ指導」講師；林病院研究指導

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書
②論文
③その他論文
④学会報告等 1. 「大腿骨頸部骨折の術後離床に対する看護師の思い；認知症や術後疼痛で離床遅延している事例に対する看護実践をととして」第 51 回日本看護学会学術集会(看護管理 分科会：慢性期看護) 共同報告 林史郎 ¹⁾ ※、高田悠子 ²⁾ 、寺島喜代子 ³⁾ （2020 年 11 月） 2. 「介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景」第 40 回日本看護科学学会学術集会、共同報告；額奈々 ¹⁾ ※、寺島喜代子 ²⁾ （2020 年 12 月）
⑤その他の公表実績
(2)科研費等の競争的資金獲得実績

(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 ・永平寺町介護認定審査委員 ・福井県医療審議会委員 ・勝山市高齢者虐待防止ネットワーク委員

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・入試本部委員 ・看護福祉学部 大型予算研究・ICT 推進 WG 委員 ・看護学科 カリキュラム委員 福井県立病院実習領域総括
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など